

## 6. 気象の状況

三海面に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島とならんで温暖な地方である。しかし両総台地は内陸性気候で寒暑の差はやや大きく、反対に太平洋岸及び内湾沿岸は海洋性の気候で比較的暖かく、特に房総南部沿岸地帯は冬も霜をみないほどである。

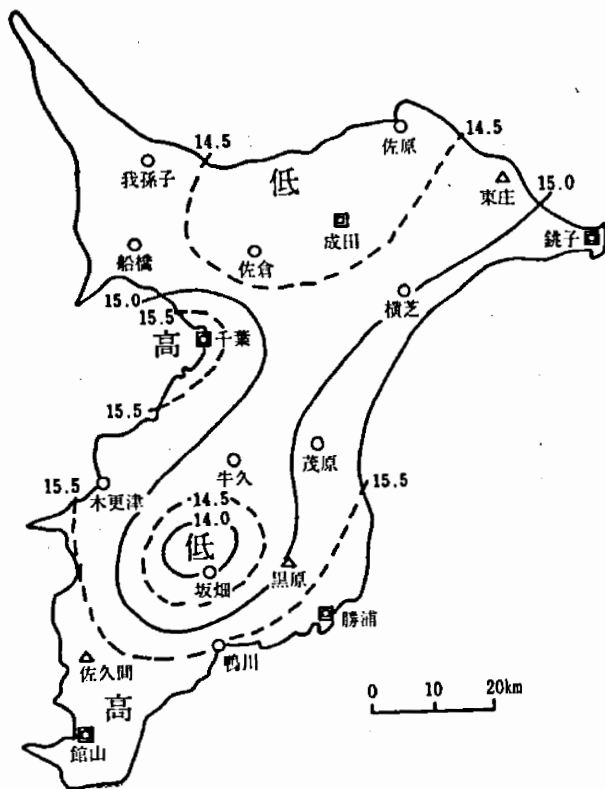
雨量は地域により差はあるが、房総丘陵の南側及び銚子地方が多く、北西部は少ない。特に内湾沿岸は本県でも最も雨量の少ない地域である。

昭和62年の気象の特記事項の主なものは次のとおりである。2月4日には、低気圧による強風、波浪により銚子港で第65惣宝丸（80t）が大波を受けて沈没、8名が死亡、7名が行方不明となった。3月8日は南部丘陵地帯中心の大雪、4月1・14日には内陸部を中心の降霜により農作物への多大な被害（15億6,500万円）があった。

また、6、7、8、9の各月にも大雨や雷雨によるがけくずれ、道路損壊、停電等の被害があった。

12月17日には、本県の東方沖でマグニチュード6.7の地震が発生し、銚子、千葉、勝浦で震度5の強震を観測した。この地震により2名が死亡したのをはじめ、負傷者や家屋の損壊も続出した。

県内年平均気温（℃）



県内年降水量（mm）

